

第1回 由良地区堤防景観検討会 議事概要

日時：平成30年11月26日（月）14:30～15:30

場所：由良の里センター 2階会議室

【出席者（順不同）】

明石工業高等専門学校 教授 神田委員（座長）

京都市立芸術大学 教授 藤本英子委員

北近畿タンゴ鉄道株式会社 施設統括本部長 秋山委員

WILLER TRAINS 株式会社 工務部長 橋委員

京都府 丹後土木事務所長 吉岡委員

宮津市 建設部 土木管理課長 小牧委員代理（宮津市 建設部長 山根委員）

由良地区代表 藤本繁光委員

由良地区代表 岡田委員

議事1：規約（案）（資料-1）

規約（案）について事務局から説明を行い、了承された。

議事2：座長の選出

明石工業高等専門学校 教授 神田委員が座長に選出されたことについて了承された。

座長職務の代行として京都市立芸術大学 教授 藤本委員が指名されたことについて了承された。

議事3：由良川水系河川整備計画での由良地区について（資料-2）

事務局より由良川河川整備計画での由良地区について現状や今後の整備の見込みなどについて説明を行った。

- ・由良地区は河口付近であることから由良地区の水位データを示すとともに、由良地区の水位データと大川橋地点の水位あるいは福知山地点の水位データの相関を示すこととなった。

議事4：由良地区の景観（歴史風景、特徴等）（資料-3）【参考資料：堤防の景観事例集】

由良地区の景観（歴史風景、特徴等）について事務局から説明を行った。

議事5：意見交換

河川整備計画における由良川や由良地区の景観に関して、事務局からの説明などについて意見交換を行った。

主な内容は以下のとおり。

- ・由良石については戦後から昭和30年くらいまで奈具海岸の西側の石切り場で生産され、様々な箇所でも利用されていたが、正確な理由は不明であるが線路そばに石切り場があるためもあってか現在は生産されていない。
- ・由良港については現在の港との関係やいつまで使われていたのか、正確な場所は不明。
- ・石積み水制工について、設置者、整備時期等が不明であるため確認を行うこととなった。
- ・宮津市都市計画の地域区分で由良地区は東部地域になっており、景観との関係を確認することとなった。
- ・対岸の舞鶴市について景観の景観等について確認することとなった。
- ・景観のみならず、地域の関連で景観の方向性を定めている文書について確認を行うこととなった。
- ・稲荷神社については船頭もしくは船主が金比羅神社へ奉納したとされる絵馬があり、北前船と関係があるかもしれないとの意見があった。
- ・石垣があり、稲荷神社の川側の今は砂で埋まっている箇所に過去の石垣があるとの意見があり、掘る方法などについて事務局が検討を行うことになった。
- ・川岸に出るための出入り口がいくつかあることから、現状の使われ方、対象から現代までどのような使われ方をしてきたか確認を行うこととなった。
- ・過去存在した船着き場は砂に埋まってしまったため使われておらず、現状の船着き場何らかの形で使われている。レジャー関係としては鉄道の上流側はウインドサーフィンに利用されている。
- ・堤防が整備されると内水の問題が発生するため対応を行い、地元の課題を解消するよう委員から意見があり、事務局としては関係機関と調整しながら進めたいと考えていることを説明した。
- ・堤防ができると水面が見えなくなることが懸念されるため、堤防内にその高さを持つ

てくるか堤防から川に入れるように親水性の高い施設を作るなどの工夫を考える必要がある。

- ・鉄橋の高さと同じくらいだったため堤防内を高め視点場を作るか堤防から川に入れるように親水性の高い施設を作るなどの工夫を考える必要がある。
- ・地元の素材を活用することは重要であるため、過去に存在したとされる護岸を掘起こしてリサイクルするなどのことも考える必要がある。

議事 6 : 今後のスケジュール

事務局から今後のスケジュールについて説明を行った。

- ・次回のコンセプト案について具体的に堤防の形式や線形などを決めるということではなく、第2回は第1回の議論を踏まえて景観検討の着眼点を提案することになった。

以上